



# ヴォーリズ建築復元研究

## —神戸女学院北寮・中高部寄宿舎の建築について—

### Keywords

神戸女学院 W.M.ヴォーリズ 学校建築  
外国人建築家 重要文化財 復元

AK15040 佐々木 優樹  
AK15051 瀬谷 采花

## 1. はじめに

### 1.1 研究目的・背景

神戸女学院は兵庫県西宮市岡田山に本部を置く私立大学である。1875年にアメリカから派遣された2人の女性宣教師によって創立され、当時からキリスト教主義に基づく「愛神愛隣」をスクール・モットーとした全人教育を目指している。学院の発展と共にキャンパス移転などの歴史があるが、現在使われている校舎はアメリカ人建築家W.M.ヴォーリズ設計で1933年に竣工した。ヴォーリズの設計思想は学院のリベラルアーツ教育の理念と合致するものであり、学院の建築を通して存分に表現されている。キャンパス移転から85年を迎える今も尚、当時とほとんど変わらぬ姿を残す校舎は、竣工時に建てられた17棟のヴォーリズ建築のうち現存する12棟が2014年に重要文化財に指定されている。そこで本研究では、失われたヴォーリズ建築のうち最も深くリベラルアーツ教育に関わる寮・寄宿舎建築を復元し、他のヴォーリズ建築との比較によってヴォーリズの建築思想がどのように学院の建築物に現れているのかを考察し、建築家W.M.ヴォーリズと神戸女学院の変遷を紐解く資料の一つとなることを最終目的とする。

### 1.2 研究方法

- (1) 現地見学及びヴォーリズ・神戸女学院に関する史料の収集
- (2) 史料を基にした図面作成
- (3) AutoCADを用いた3D復元
- (4) ヴォーリズ設計の他の建物との比較・考察

## 2. 調査対象について

### 2.1 神戸女学院概要

所在地：兵庫県西宮市岡田山4-1

設計：W.M.ヴォーリズ建築事務所

施工：竹中工務店

竣工年：1933年(昭和8)

敷地：1365,026㎡

スパニッシュミッションスタイル(南地中海様式)の校舎で、淡いクリーム色の外壁と赤銅色の瓦が特徴。神戸女学院は3つのエリアからなっており、キャンパスは学校の教育理念が目に見える形となっている。正門を上がってくると大学のエリア、中庭を中心に知を象徴する図

書館本館、向かいに精神を象徴するチャペルを擁する総務館、左右に理科学系の学びを象徴する理学館と文系の学びを象徴する文学館が向かい合って建っている。講堂を中心に中高部のエリアが分けられ、右手側に中高部の校舎が配置されている。講堂奥のグラウンドを通り過ぎると居住エリアが現れる。



写真1 神戸女学院文学館

### 2.2 教育理念とキャンパス構成

神戸女学院は、リベラルアーツカレッジの理念を日本に導入し、日本に合う女子高等教育を行うべくカリキュラムと共に校地を整備した。神戸女学院におけるリベラルアーツ教育は単なる教養教育ではなく、文科と理科を総合的に学び、当時の男子の大学に引けを取らない知的水準の学問を与える一方で、キリスト教に根ざした心の教育にも重点を置くものだった。寄宿制度を採ることによって家庭的な要素を取り入れて、教室での学びだけではなく日常生活から感化を与えられる全人教育を目指した。中庭を校舎群で囲った構成はイギリスのミッションスクールによくみられる中庭(Quadrangle クォドラング)である。イギリスの大学のクォドラングが「ロ」の字型の一つの建築物によって囲まれた閉じられた中庭であったのに対しアメリカのクォドラングは、三方が校舎によって囲まれているが一方は街に対して開けているのが一般的である。アメリカのリベラルアーツカレッジを理想とした神戸女学院がイギリス式を採った理由としては、キャンパスと連続して開かれるべき街がなかったこと、女子大学として女子学生を守り包み込むため等の理由がある。神戸女学院のクォドラングは総務館・図書館・文学館・理学館が中庭を中心に形成して

いる。知性を代表する図書館と、キリスト教を代表する講堂とチャペルを含む総務館が同じ比重をもって配置され、また人文科学・社会科学を学ぶ文学館と自然科学を学ぶ理学館が、切り離された個別の建物ではなく中庭を挟んで向かい合うように配置されたことは、学院の教育理念であるリベラルアーツ教育の本質をキャンパスデザインとして表現したものであると言える。また、イギリスの閉じられたクオドラングルが石造りの窓の小さな一体の建物で構成されていたことに対し、それぞれ独立し大きな窓を備えたスパニッシュミッションスタイルによる「開放的な閉じられたクオドラングル」は日本の他大学だけでなく、アメリカの大学にも類例を見ない貴重で独自のキャンパスデザインであるといえる。神戸女学院の中庭の模型写真を写真2に示す。



写真2 神戸女学院中庭

### 2.3 敷地条件

設計者のヴォーリズは敷地条件に関して「学校の立地としてこの丘の敷地以上のものはない」と評価し、建物を建てるために美しい自然の景観を切り崩し破壊しないことを大前提とした。眺望の美しさと程よく隔離された丘上の立地という所与の自然形態を、恵まれた前提条件として受け留め、現生の松や多種の樹木の保護は計画案策定の当初から岡田山キャンパス設計の基本姿勢であった。また、配置計画のみならず建築計画においても、自然の地形に従って建築することが設計の基本姿勢であり実現に至ったものである。このように自然と一体となったキャンパスデザインの考え方は19世紀のアメリカにおいて広く行き渡っていたものであり、アメリカのリベラルアーツカレッジのキャンパスの多くも、森の中にあるかあるいは森と隣接し一体となったものが多い。

### 2.4 歴史

1875年10月12日、神戸市山本通に寄宿舎を備えた最初の校舎を建て女子のための学校を開校し、個性と自由を尊ぶ全人教育を目指した。そうしたリベラルアーツ教育の精神を女性学院長が代々引き継ぎながら学園は急速に発展していった。学院の発展に伴いさらに広い校地の確保のため、学生を集めやすい京阪神に位置する西宮北

郊・岡田山の地へのキャンパス移転が決定した。校舎の建築資金は神戸女学院の支援団体であるKCCの募金によって集められ、アメリカ全土から個人だけでなく、法人や学校からの寄附によって当時のお金で約70万ドルといった巨額の資金が集まった。リベラルアーツ教育を行うためにはそれに見合った校舎が必要と考えられており、キャンパスの設計者には伝道者にして建築家として名高いW.M.ヴォーリズが選ばれ、1931年に着工し、1933年に現在の岡田山キャンパスが出来上がった。

### 2.4 設計者について

#### 2.4.1 設計者 W.M.ヴォーリズ

岡田山キャンパス設計者W.M.ヴォーリズは1880年米国カンザス州レブンワースに生まれ、2歳の頃から幼児洗礼を受ける。大学入学後、YMCA（Young Men's Christian Association）の活動に取り組み海外伝道を決意。大学を卒業した1904年に滋賀県の商業学校の英語教師として来日。1908年に京都で建築設計事務所を開業。

#### 2.4.2 建築家として

ヴォーリズは建築家として近江八幡を拠点に活動していた。精神的要素を重視し、建築の中に住む人、働く人へ幸福をもたらすのが建築家自身の幸福であるとの信念を持って、日本でいくつもの学校や病院、商業施設、住宅を設計した。大正末期から昭和初期にかけて建築家として日本で数多くの西洋建築を手がけたが、その種類も様々であり、生涯彼が残した作品は1600件にも上る。神戸女学院の他にも同年代に設計された学校建築を挙げると、関西学院大学・東洋英和女学院・同志社大学アーモスト館などがある。建築は単に装飾的芸術作品であることを求めるのではなく、本来建築が備えるべき有用性と経済性の優先を計画の基本とした。歴史的建築様式の応用するという設計手法を用いる。

神戸女学院岡田山キャンパス設計の依頼をした理由として、地元の建築家であり



写真3 W.M.ヴォーリズ

建築中でも必要な相談や変更を行うことが可能であること、日本での工事請負や手続き、地元での資材調達について知識が十分にあることに加え、ヴォーリズ夫人である一柳満喜子が神戸女学院音楽部ピアノ科の卒業生であり、個人的に関心を寄せていたことが挙げられる。

「建築それ自体が生徒の上に積極的影響を及ぼす」というのが彼の設計思想であり、「校舎が教育する」という思想は神戸女学院のキリスト教に基づいたリベラルアーツ教育の理念と合致するものであった。

### 3. 重要文化財

2009年11月文学館・理学館・図書館本館・音楽館1号館・総務館(講堂、ソールチャペルを含む)5棟が国指定登録有形文化財に認定。5年後の2014年5月にこれまで登録有形文化財に指定されていた5棟以外の建物も含めた12棟が重要文化財に指定された。

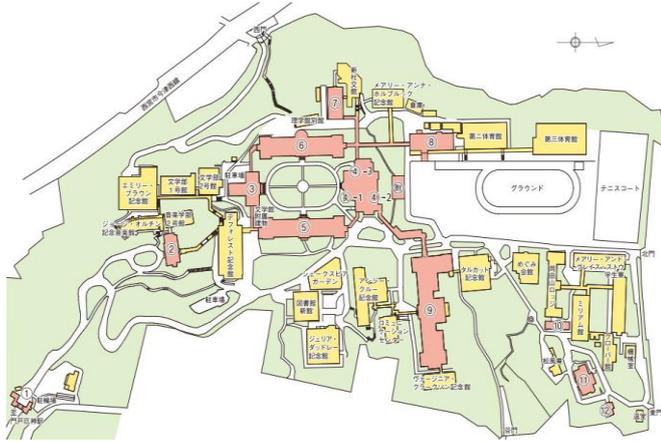


図1 岡田山キャンパスマップ(現在)

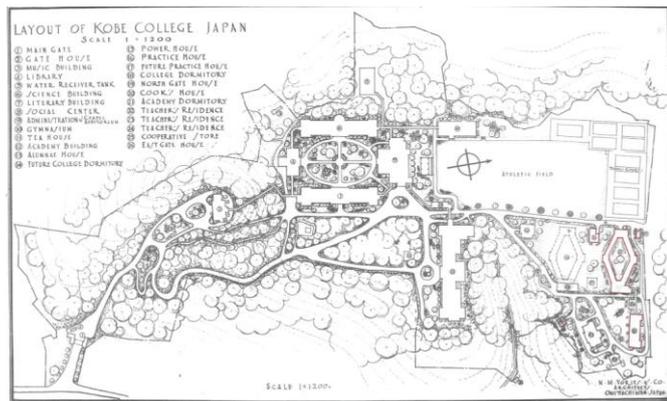


図2 岡田山キャンパス配置図(1931)

### 4. 移転当初と現在

移転当時と比べ校舎はほぼ85年前の形状を保ったままであり、材質や工法を含め当時の姿を残している。しかし、キャンパス北側の住居ゾーンは1995年の阪神淡路大震災で被害を受け、5棟のヴォーリズ建築が失われた。それらは家政館、北門守衛室、北寮、中高部寄宿舎グリーンウッド館である。

### 5. 復元対象について

#### 5.1 北寮

今回復元対象とする建物の一つは、図3の配置図で北東部分の居住ゾーンに位置した菱形の北寮である。1933年竣工で当時は女子大学生の寮として使われていたが、1995年の阪神淡路大震災で再建不可能な状態となり現存しない。震災時は2階床レベルが北側に移動し、くの字型に変形した外壁の桁から外れ、2階床が下がった部分もあったが、就寝中の学生に被害は及ばなかった。木造二階建てで居室は全て洋室、2人または4人の部屋割りで

トイレと風呂は共同であったことはわかっている。リビング、ダイニング、厨房や浴室等が1階に位置し、1階のその他のスペースと2階がすべて居室となっている。寮の鈍角部分のみ他の部屋と比べて大きな間取りになった台形の部屋があり、その部屋は学生たちに「扇の間」と呼ばれ、皆がその部屋にあたることを望む人気の部屋だった。



写真4 北寮居室内部

写真5 北寮倒壊時

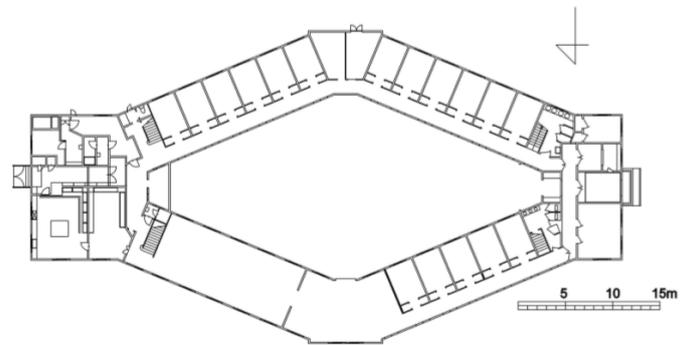


図3 北寮一階平面図

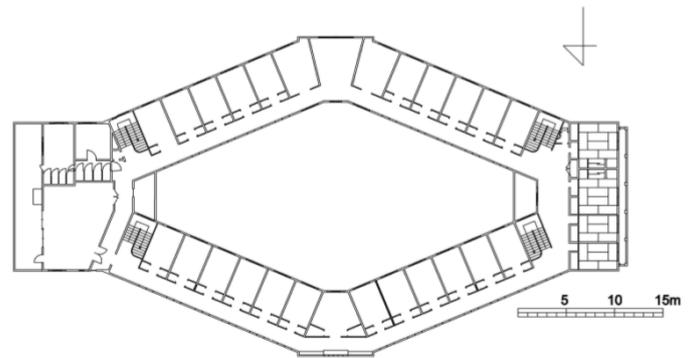


図4 北寮二階平面図



図5 北寮外観パース

## 5.2 中高部寄宿舎

神戸女学院中高部寄宿舎は大学生の寄宿舎である北寮の東側に位置していた。ミッションスクールによく見られるクオドラングルを意識したと考えられる特徴的な菱形をした北寮とは異なり、東西に通る長い廊下を持つ長方形を基調としたデザインとなっている。中高部寄宿舎も北寮同様、阪神淡路大震災により失われた。木造二階建てで居室は2人または4人の部屋割りで一部和室があり、すべての居室が南面に配置されている。寄宿舎では30人程度の学生が生活していたと思われる。食事は1階のダイニングルームで摂っていたと考えられる。トイレ、風呂は共同であり、2階には北、東、西面の3か所にデッキが設けられている。寄宿舎で生活していた生徒は寄宿舎の方が作った弁当を持ち、登校していたそうだ。

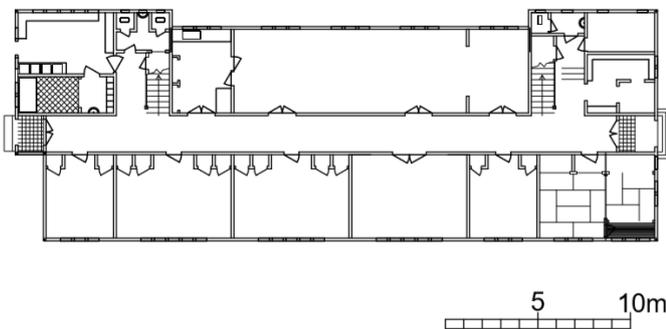


図6 中高部寄宿舎一階平面図

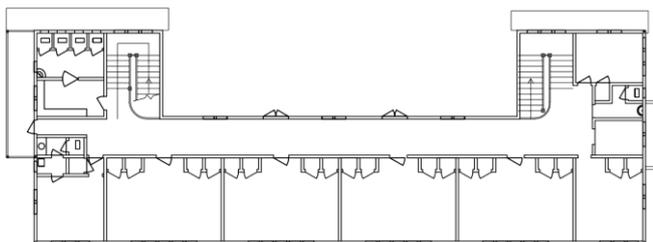


図7 中高部寄宿舎二階平面図

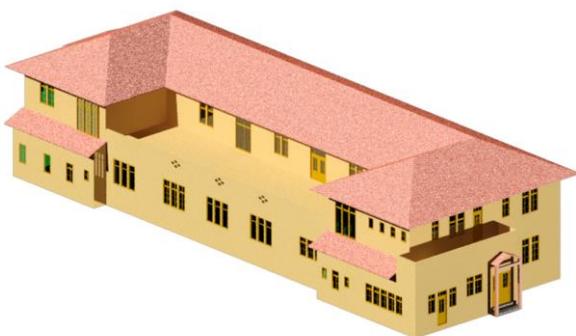


図8 中高部寄宿舎外観パース

## 6. ヴォーリズが関わった寮・寄宿舎建築

リベラルアーツ教育は日常生活を含めた全人教育を目指しているため、寮・寄宿舎のリベラルアーツ教育における重要性は高い。しかしその保存は難しく、ヴォーリズの設計による多くの寮・寄宿舎は現在失われてしまっている。ヴォーリズが関わったミッションスクールのうち寮・寄宿舎の設計が確認されているのは26校。そのうち竣工が確認されている22校に寮が現存するか問い合わせたところ、結果は表1、表2のようになった。

表1 失われたヴォーリズの寮

青山学院	東洋英和女学院
福岡女学院	神戸女学院
関西学院（神戸原田）	頌栄保育学院
関西学院（西宮上ヶ原）	恵泉女学園
啓明学院	九州女学院
広島女学院	日ノ本学園
ランバス女学院	西南学院
女子聖学院	国際基督教大学
フェリス女学院	九州学院
カナディアン・アカデミー	

表2 現存するヴォーリズ寮建築

同志社大学 アーモスト館	西南女学院
--------------	-------

このように明治終わりごろから昭和初期にかけて作られた多くのミッションスクールの寮は失われた。また、その史料なども現在まで残されているものは数少ない。

### 7. 比較対象

今回比較対象の寮建築として資料を手に入れられたものが表3に記載された学校建築である。

表3 比較対象

国際基督教大学	日ノ本学園
西南学院	広島女学院
同志社大学	聖学院

現存する寮建築がほとんどない事に加えて、その図面や写真などの資料に関しても大学自体で管理しているものを見つけることが困難な状況であった。

#### 7.1 日ノ本学園(1913年)

神戸女学院中高部寄宿舎によく似たコの字型の建築。ヴォーリズ建築によく見られる煙突のようなものも確認できる。2,3階の居室部分と思われるところにはベランダが付いており、戸袋が確認できるため、縁側のように使われていたのではないかと考えられる。

#### 7.2 西南学院(1920年)

1階が共有スペース、2,3階が寮生の部屋となっている。非常に細長い長方形を基調とした建築である。1階はエントランス入ってすぐにリビングルーム、その隣にキッ

チンがあり交流の場として利用されていたと考えられる。細長い長方形の両端にトイレ、続いて階段が配置されている。2階、3階は寮生の居室となっており、それぞれ6畳間が14部屋、計28部屋ある。屋根には出窓が付いており、煙突がある。

### 7.3 聖学院 (1922年)

3階建てで、いびつなコの字型の建物に2階建ての細長い建物が合わさったような形をしている。細長い建物部分の1階は風呂、キッチン、トイレの水回り、この寮で働いている寮母さんの部屋と思われる10畳の和室部分で構成され、2階部分は教師のための部屋となっている。コの字型の建物部分は1階にダイニングルーム、ゲームルーム、読書室と生徒の交流、学習のための空間となっており、2階以降から縁側付き6畳和室の生徒部屋となっている。2階には生徒の部屋が7部屋ある。

### 7.4 同志社大学 アーモスト館 (1932年)

2階建て長方形の建築にサンポーチが付いた建築となっている。アメリカの住宅を思わせる外観である。

### 7.5 国際基督教大学 (1955~57年)

5棟の寮がヴォーリズ設計、大成建設により施工された。どれもI字型を基調とした概形となっている。一方1949年の男子寮計画案はパノプティコンで注目に値する。

## 8. 比較

### 8.1 建築規模

ヴォーリズが携わった寮建築の概要を表4に示す。

表4 ヴォーリズ寮建築概要

	竣工年	延べ床面積	構造
日ノ本学園	1913年	不明	木造3階建て
西南学院	1920年	不明	3階建て
広島女学院	1921年	不明	不明
聖学院	1922年	852.63㎡	木造3階建て
同志社大学 アーモスト館	1932年	891.00㎡	RC造地下1階 地上3階
神戸女学院 北寮	1933年	1596.34㎡	木造2階建て
神戸女学院 中高部寄宿舍	1933年	704.53㎡	木造2階建て
キャンパス レイアウト 及び男子寮 計画	1949年 (考案)	不明	不明
第1男子寮	1955年	787.580㎡	木造2階
第1女子寮	1955年	666.170㎡	木造2階
第2男子寮	1956年	857.260㎡	RC造地下1階 地上3階
第2女子寮	1956年	851.750㎡	RC造地下1階 地上3階
第3女子寮	1957年	722.140㎡	RC造地下1階 地上3階

### 8.2 概形

表5 ヴォーリズ寮概形

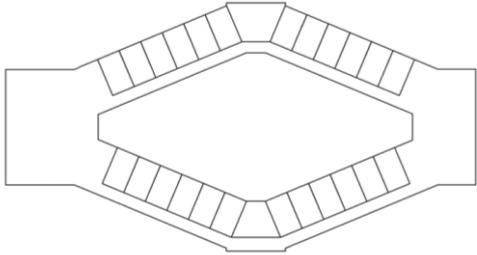
	竣工年	延べ床面積	仕様
概形/様式			
平面構成			

西南学院	1920年	不明	3階建て
I字型/初期モダニズム・アメリカンコロニアル			

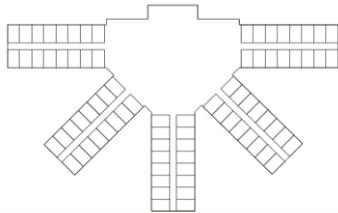
広島女学院	1921年	不明	不明
I字型(2列)			

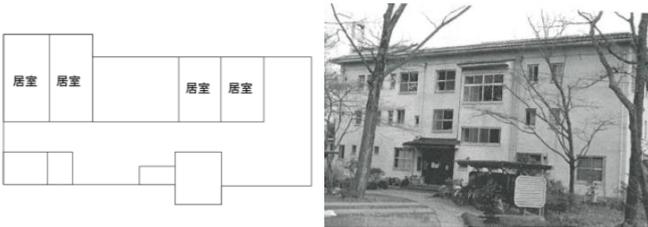
聖学院	1922年	852.63㎡	木造3階建て
コの字型/アーリーコロニアル			

同志社大学	1932年	891.00㎡	RC造地下1階 地上3階
I字型(2列)/ジョージアン・フェデラル			

神戸女学院 北寮	1933年	1596.34㎡	木造2階建て
菱形/スパニッシュミッション			
			

神戸女学院 中高部寄宿 舎	1933年	704.53㎡	木造2階建て
コの字型/スパニッシュミッション			
			

国際基督教 大学 男子 寮計画	1949年 (考案)	不明	不明
パノプティコン/モダニズム			
			

第二男子寮	1956年	857.260㎡	RC造地下1階 地上3階
I字型(2列)/モダニズム			
			

## 9. 考察

明治終わりから昭和中期にかけてヴォーリズはいくつかの寮建築を設計しているが、それぞれを比較してみるといくつかの外形や様式の変化が表れる。様式に関してはアメリカのジョージアン様式や、スパニッシュミッション様式などが年代に関係なく建物によってランダムに表れる。これはヴォーリズがアメリカで生まれ、当時その土地にあった様々な建築様式の中で建築を学び、そのことに強く影響を受けたためと考えられる。神戸女学院中高部寄宿舎はそれまで建築されてきた寮の形を踏襲した一般的なコの字型の外形となっており、東洋英和女学院同様スパニッシュ様式をとっている。一方で、それまでコの字型やI字型が主であったのに対し神戸女学院北寮の菱形の建築や、少し年数が空いて国際基督教大学のパノプティコンを連想させるような特殊な形の寮の考案を見ると、時代に合わせた様式を取り入れつつも特殊な外形の設計によりヴォーリズは思いを表現していると感じる。北寮に関して考察するとヴォーリズ設計の寮建築の中で他に例を見ない菱形の外形は、妻の母校のためということもあり女学生を守るという強い思いが表れているだろう。国際基督教大学のパノプティコン形の男子寮計画は戦後モダニズムを取り入れながらも生徒を監視しようとした意志が垣間見える。しかし、国際基督教大学の施工が実現されてないことから、神戸女学院北寮は寮建築として形となった注目すべき貴重な建築物であるといえる。

## 10. まとめ

ヴォーリズはリベラルアーツ教育において重要な役割を果たす寮建築を日本で多く手がけ、用途・規模・立地等を考慮した様々な形を残している。神戸女学院は特にリベラルアーツ教育の精神を校舎に強く反映し、アメリカのミッションスクールの典型を日本で再現したものであるが、他の学校建築と比べても、1933年竣工当時の姿をほとんどそのまま残し、現在も修復・改修を行っていることは注目すべき点である。神戸女学院の現存するヴォーリズ校舎が重要文化財に指定されているという事で、寮建築に関しても現存すれば文化財になっていたであろう貴重な建築物として、本研究による復元データにより今後更なるヴォーリズ建築の研究が進展することを願う。

### 参考文献

- (1) 神戸女学院公式HP : <https://www.kobe-c.ac.jp/>
- (2) 「神戸女学院岡田山学舎の建築 歴史調査報告書」  
学校法人神戸女学院 2013
- (3) 一粒社ヴォーリズ建築事務所公式HP : [www.vories.co.jp/](http://www.vories.co.jp/)
- (4) ウィリアム・メレル・ヴォーリズの建築 ミッション建築の精華
- (5) 建物に見るICUの歴史
- (6) ヴォーリズ建築図面集